

学校における取組事例

外国語活動の課題と高学年の新たな補助教材の在り方について（抜粋） （「英語教育の在り方に関する有識者会議審議（平成26年9月26日）」報告）

現状・課題

- 小学校における外国語活動においては、国により作成された小学校外国語活動教材例、「Hi, friends!」が希望する約2万校の学校に配布され、地域、学校、学級の実態に合わせて工夫・活用がなされている。また、児童の多くが外国語活動の授業や外国語学習に対して肯定的であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されてきている。
- 中1 対象による調査では、外国語活動の授業で、「もっと学習しておきたかったこと」の回答の割合として、「英語の単語を読むこと」が77.9%、「英語の単語を書くこと」が81.7%、「英文を読むこと」が77.6%、「英文を書くこと」が78.6%であり、音声中心の活動に比べ、10ポイントほど高い数値である。小学校の外国語活動で音声中心に学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、発音と綴(つづ)りの関係の学習や文構造の学習に課題があるなどの指摘があった。
- このような状況を踏まえ、小学校の外国語活動が導入されて一定の成果を上げているものの、中学校での学習への円滑な接続を考えると、小学校高学年段階において、文字の扱いや文構造への気付きなど、中学校との接続を意識した指導に有効な教科書・教材が必要である。

今後の方向性

- 先進的な取組も含めたこれまでの外国語活動の成果・課題を踏まえ、小学校中学年では、発達段階に応じた外国語活動に必要な教材の開発を行う。小学校高学年では、教科化に伴って教科書の整備が必要となる。また、教科化され、教科書が整備されるまでの間、国において、中学校との円滑な接続を意識した補助教材、及び新たな教材を作成する。
- 補助教材については、アルファベット文字の認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴、文構造への気付きを促す指導ができるようなものとし、高学年における外国語の教科化において求められる教材等として、国の「英語教育強化地域拠点事業」における研究開発校等において、平成27年度より試行的に活用しながら、その効果を検証する。さらに、その検証結果を、小学校高学年の教科化に向け、新学習指導要領移行期に各学校において活用することを想定した新たな教材開発に生かすものとする。

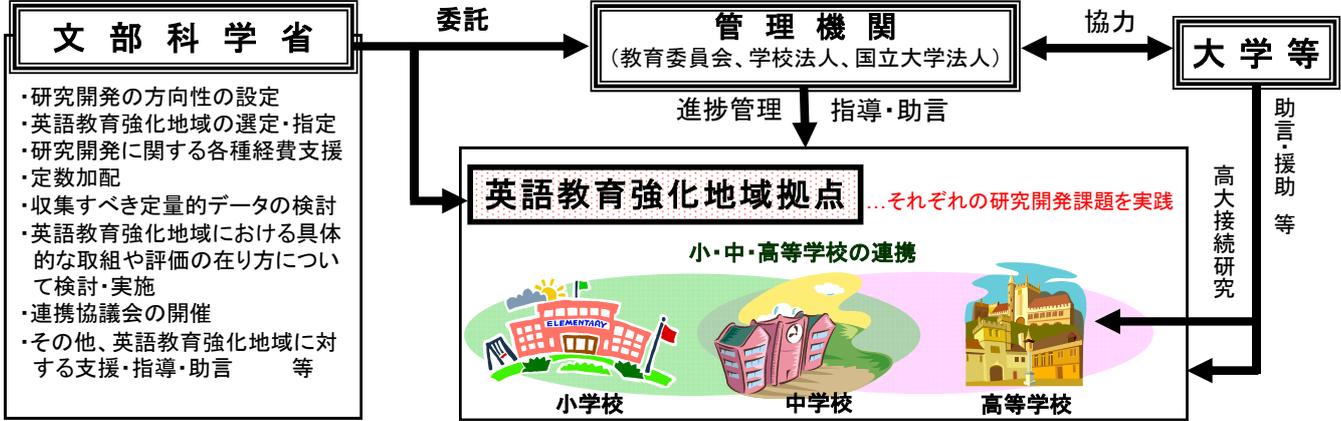
概要

- 教育再生実行会議 第三次提言 (H25. 5. 28)
- 第2期教育振興基本計画 (H25. 6. 14)
- グローバル化に対応した英語教育改革実施計画 (H25. 12. 13)
- 英語教育の在り方に関する有識者会議 報告 (H26. 9. 26)
- 中央教育審議会における審議 論点整理 (H26. 11~H27. 8)

〈今後の英語教育の方向性〉

- ・小・中・高を通じて「英語を使って何が出来るようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示す
- ・小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行う、中学校では、授業は英語で行うことを基本とする、高等学校では、幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う能力を高める
- ・これを踏まえ、先進的な取組を支援するとともに、その成果を今後の英語教育の在り方に関する検討に生かす

※ 委託事業：25地域(都道府県・政令指定都市教育委員会、国公私立大学法人、学校法人)



研究開発課題(例)

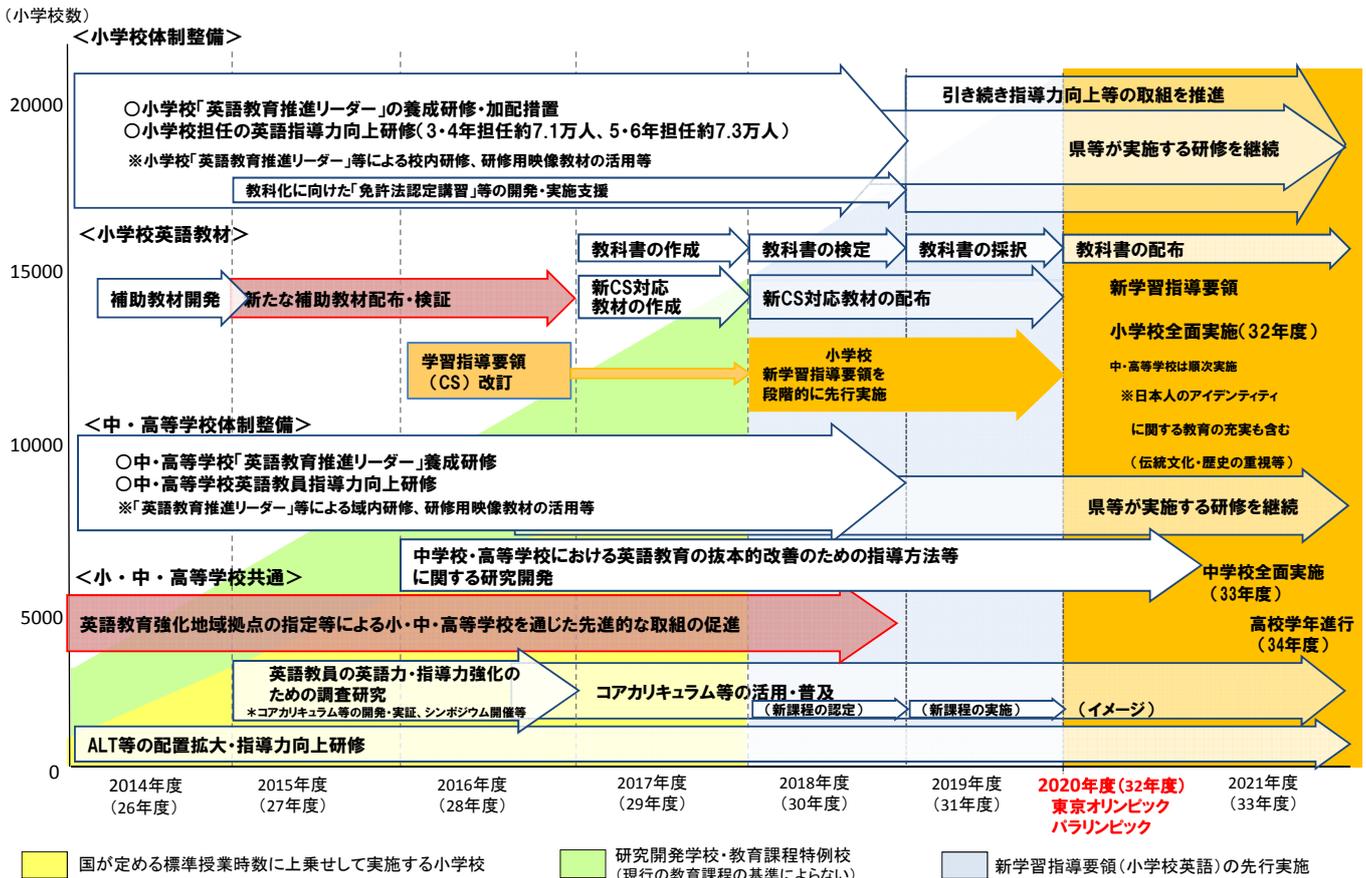
- (1) 小・中・高等学校を通じた目標の設定
- (2) 小学校では、中学年から外国語活動開始及び高学年での教科化
- (3) 中学校では、互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を重視、授業は英語で行うことを基本とする。
- (4) 高等学校においては、幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う能力を高めること
- (5) 小中・中高の学びが円滑に行われるための取組 等

検証すべき取組・データ(例)

- 英語運用能力に関する評価研究
- 小学校の新たな外国語教育における補助教材を活用した研究
- 英語学習に対する関心・意欲
- 他教科等への影響 等

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

平成27年12月



小学校の外国語教育における新たな補助教材“Hi, friends! Plus”について

1. 目的

- 「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告（平成26年9月）における提言を踏まえ、文部科学省において、小学校高学年における教科化に向けた新たな補助教材“Hi, friends! Plus”を作成。
- 研究開発校等において、平成27、28年度の2年間を通じてその効果を検証。
- 中央教育審議会における次期学習指導要領の審議において検証結果を活用するとともに、学習指導要領改訂後の新たな教材開発に活用。

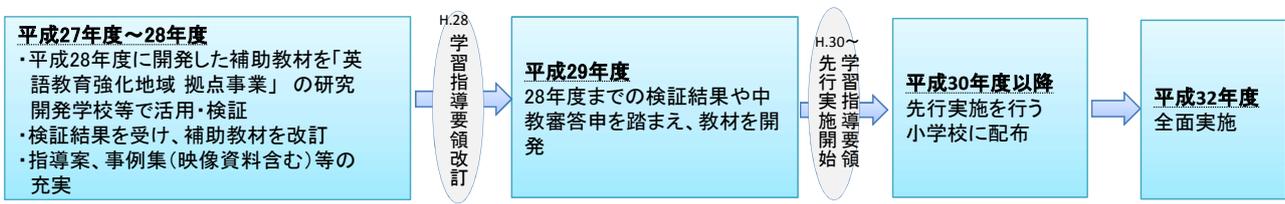
2. 補助教材のポイント

- 次期学習指導要領の改訂に向け、身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう、映像や音声を活用し、
 - ① アルファベットの文字の認識、
 - ② 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、
 - ③ 日本語と英語の語順の違いなど文構造への気付き等、
 に関する指導に必要な新たな教材を開発し、効果を検証する。

3. 配布先

平成27年3月下旬以降、ワークシートのHP掲載に加え、「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発学校を中心に、以下の配布先へデジタル教材（DVD）を配布

- ・ 教育課程特例校、その他、先進的な英語教育を実施する小学校
- ・ 都道府県・市区町村教育委員会等



(参考) 外国語教育に係る教材等一覧

現状



- “Hi, friends!”
小学校外国語活動の教材として平成24年度から文部科学省が希望する全国の小学校に配布。
平成27年度は約96%の学校に配布。
※指導編も併せて配付。
※指導案等もHPで公開。



- “Hi, friends!”デジタル教材
“Hi, friends!”に準拠し、ネイティブ・スピーカーの発音や絵カード、チャンツ等を収録した教材。“Hi, friends!”と共に全国の小学校へ配布。

- 授業実践事例映像資料
学習指導要領に沿って行われている授業を録画・編集し、解説を加えて全国の学校に配布。これまでに小学校3種、中学校2種、高等学校3種を配布。

平成26年度開発 “Hi, friends! Plus”



掲載場所：文部科学省HP→外国語教育→小学校の新たな外国語教育における補助教材の作成について

- 小学校の新たな英語教育における補助教材
次期学習指導要領の改訂に向け、身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう、映像や音声を活用し、
 - ・ アルファベット文字の認識、
 - ・ 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、
 - ・ 語順の違いなど文構造への気付き等、に関する指導を補助。

次項へ



本年度

○ 活動事例
「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発学校等での実践事例をもとに、ワークシートやデジタル教材の効果的な活用について紹介したものを、HPに掲載。

ワークシート活用の留意点

○ワークシートは、印刷して活用してください。
ワークシートは、デジタル教材、教材の複製材料。This is ARIで書いている内容をそのまま印刷して活用してください。紙の教材が印刷できず、印刷できない場合は、デジタル教材の複製材料を文字で表すことで、それぞれの使い分けが明確になります。



○ 補助教材構成表
小学校高学年におけるそれぞれの補助教材について、ねらいと内容、内容の詳細を整理したものを、HPに掲載。

形態	内容	ねらい	内容	内容の詳細
CD-ROM (配布)	動画	アルファベット文字認識	書き方例	大文字 小文字
			クイズ	1 懐中電灯 2 文字当て 3 文字当て
		アルファベット文字認識 音の認識 単語になれる	小文字1枚画	アルファベット小文字・アルファベットの音 単語・単語の発音 アルファベット
	音の認識	アルファベット文字認識 音の認識 単語になれる	ジングル	動物 食べ物 国名
			クイズ	小文字探し・単語・語頭の音・意味(イラスト) アルファベット: 5バージョン 動物: 3バージョン 食べ物: 3バージョン 国名: 1バージョン 2単語: 1バージョン
		音の認識	ジングル	動物: 3バージョン 食べ物: 3バージョン 国名: 1バージョン 2単語: 1バージョン

掲載場所: 文部科学省HP→外国語教育→小学校の新たな外国語教育における補助教材の作成について



来年度

- 平成28年度には、研究開発学校等における3・4年生及び5・6年生の取組の効果の検証を行うとともに、その検証結果及び学習指導要領改訂の審議状況を踏まえ、補助教材等を改訂
- 補助教材の指導案、事例集(映像資料含む)を作成
- 3・4年生を対象にした新たな補助教材(絵本2種類 1・2)を作成・配布
- これらの検証結果を学習指導要領改訂後、平成29年度以降の新たな教材開発に活用

(参考) H27年度「英語教育強化地域拠点事業」地域の小学校における教科化に向けた実践・検証(イメージ)

小学校5・6年生の外国語活動: 年間35時間
(Hi, friends! 2 現行)

小学校5・6年生の教科型の授業: 年間70時間程度
(Hi, friends! + Hi, friends! Plus + 独自教材)

単元名	題材	目標例
Lesson 1	文字・言語	積極的に数字やアルファベット、世界の文字について尋ねたり答えたりする。
Lesson 2	行事・月日	世界の行事や習慣と、日本の祭りや行事を月ごとに取り上げ、友達と積極的に英語で話す。
Lesson 3	スポーツ・動作	スポーツなどできることを積極的に友達と尋ねたり答えたりする。
Lesson 4	建物・道案内	積極的に行き方を尋ねたり道案内をしたりしようとする。
Lesson 5・6	世界の国々・生活	自分の思いが伝わるように世界の国、生活、時差などを発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりする。
Lesson 7	日本の童話・世界の童話	英語で物語の内容を伝えようとする。まとまった話を聞いて内容がわかり、場面にあった台詞を考えて言えるようにする。
Lesson 8	職業・将来の夢	どんな職業につきたいか友達に尋ねたり答えたりする。世界の同年代の子供たちの夢を知り、自分の「夢宣言」をする。

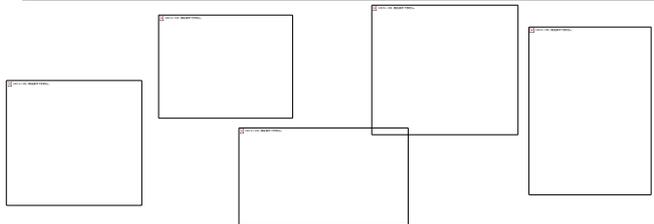
新たな目標: 身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う

教科化に向けて、26年度中に補助教材を作成・配布

- ◎ アルファベットの文字や単語などの認識
- ◎ 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
- ◎ 語順の違いなど文構造への気付き

> 自信をもって英語で積極的に「聞く」「話す」ことができ、「読む」「書く」ことへの興味を育てるようにする。
※小学校段階の語彙数は400程度を想定しているが、今後、拠点地域の研究開発学校などにおいて実証し、中央教育審議会において検討

◎ 題材の充実(例)
日本の行事に加え、地元の伝統行事、文化財、地場産物など、英語を通じて「ふるさとの魅力」に興味を持ち、自分なりに英語で説明できるようにする。



日本語と英語の音声の違いや特徴への気付き

【デジタル教材でネイティブの発音に触れながら、アルファベットの文字には、読み方と音があることを知るとともに、様々な単語を言ったり聞いたりすることでアルファベットの音に慣れ親しむ】

ワークシート

ワークシート①-1
アルファベットの文字の発音・音の探し

ワークシート①-2
アルファベットの文字の発音・音の探し

デジタル教材(ジングル)

動画

ネイティブの音声で
b[bi:], b[b], b[b],
bear[béə]と音声か
流れる

デジタル教材で視聴するジ
ングルの歌詞は、家庭な
ど、外国語の授業以外で
子供たちが学習内容を振
り返るのに役立つ。

語順の違いなどの文構造への気付き (絵本)

自己肯定感を高める教材

【人それぞれ、できることとできないことがあることに気付き、「I can」という表現を繰り返し「読んで」、自分に何ができるかを考えさせる。】

No, I can't.
I can't play soccer well.

No, I can't.
I can't play the piano well.

No, I can't.
I can't play kendama well.

I can clean my classroom.
I can take care of the rabbits.
I can help others.

Yes, I can!

【例】
児童: I can't play baseball.
But I can help my mother.
I can make my family happy.
先生: That's wonderful.

【例】
先生: Can you play kendama?
児童: Yes, I can. I can play kendama.
先生: That's nice.
I can't play kendama.

世界平和(友だちの大切さ)に関する教材

【動物たちが追いかけてくる様子を通し、仲間の大切さに気づくとともに、語順などの文構造についての気付きを促す。】

Yes, let's.
Who is it?
Let's play tag.
You are it.

【例】
先生: What animal is this?
Can you guess?
児童: Pig.
先生: Really? Is this a pig?
Let's check. Next page ...
児童: Yes, pig!
先生: Very good.

The rabbit is chasing the lion.
The lion is chasing the dog.
The dog is chasing the pig.

【例】
先生: Listen to me carefully.
The pig is chasing the elephant.
Which one? No. 1 or No. 2?
児童: No. 1.
先生: That's right. No. 1.
'The pig is chasing the elephant'
is No.1

ワークシート①-1
語順への気付き

先生が言う英語にあう絵は、どちらかな。

No.1

No.2